

資料報告 寄贈された大工道具

山本 菜摘

はじめに

当館では、複数の大工道具一式を所蔵しているが、今回は令和2（2020）年度に株式会社西野工務店（中央区星が丘）より寄贈された大工道具一式について報告する。

（株）西野工務店は、大正13（1924）年に西野傳作によって創業された。傳作は大正12（1923）年の関東大震災の復興のために、上溝の福田氏に弟子入りし、大工職を始めたといわれている。寄贈を受けた大工道具は、おおよそ昭和元（1926）年から昭和28（1953）年にかけて使われたもので、一部手作りされている。

尚、実際に本資料を使用した人物は、現在鬼籍に入っているが、それを使用しているのを側で見ていた親戚から聞き書きを行っている。

詳しくは後述するが、この寄贈品の資料整理については、民俗分野の資料を整理する市民ボランティア及び令和2年度の博物館実習生が関わっている。本報告ではその具体的な内容についても紹介し、地域住民と博物館との関係性を寄贈と資料整理の双方から見ることで、多面的な見方を提示する。

1. 大工道具の概要

寄贈された大工道具一式については、表1「大工道具等リスト」にまとめた。「芳」の刻印については、おそらく傳作の長男である芳雄の印だと思われる。



写真1 「大工道具一式の一部」

（1）カンナ

最も多いのはカンナである。カンナは木材の表面を平滑にする道具であり、カンナ台とカンナ刃の二つの部位で構成されている。

今回寄贈されたものを見てみると、一般的な形状の平鉋だけではなく、敷居・鴨居などの溝加工に用いる溝道具、角の面取り加工に用いる銀杏面カンナや坊主面カンナなど、その用途に応じて様々な形状のカンナが使用されることがわかる。

（2）ノコギリ

木工用のノコギリは鋼製の鋸身と木製の柄に分かれる。寄贈された片刃鋸は縦挽きであるが、これは切断する木の繊維の方向によって、縦挽きと横挽きの違いがある。

ノコギリも用途に応じて形状が異なり、材料の中間を切り込む畔挽鋸は、弧状の短い刃渡りで首が長いのが特徴である。

（3）その他

カンナやノコギリの他にも、手斧、錐、曲尺、ドリルセットなど、大工道具として使用するものも寄贈されたが、ここではそれ以外の特色のあるものを紹介する。

自転車用工具箱（写真2）は、自転車で現場へ向かう際に使用したものだ。これは自転車のフレームの中に挟んで使用したという。こうしたものから実際にどのように現場に向かい、日々の生活を送っていたのか、職人の日常を窺い知ることができるだろう。



写真2 「自転車用工具箱」

新築する家の上棟式では、鬼門の方角（北東）と裏鬼門の方角（南西）に向けて、屋上に二張りの弓矢を魔除けとして飾り付ける。

寄贈された上棟式用の鏝は、この魔除けの弓矢につける飾りであり、西野傳作によって作られたものである。（写真3）青を基調とした色彩に、波や花が描かれている。大工が単に住居を建築するだけでなく、建築儀礼にも深く関わっていることをモノを通して理解することができる貴重な資料といえる。



写真3 「上棟式用の鏝」

内丸カンナや外丸カンナ、南京カンナ（底回しカンナ）（写真4）など、曲物加工に使う道具も見受けられる。これらは西野家には昔から建築業に関わる者が多数従事していたからだと考えられる。



写真4 「南京カンナ」

これらの道具は、昭和24（1949）年に上溝丸崎地区の山車を作った際にも使用されたと伝えられている。また、寄贈いただいた一式の中にも、丸崎の山車を作った際の山車のパーツが含まれている。（写真5）



写真5 「丸崎山車の部品」

2. 資料整理作業について

今回㈱西野工務店より寄贈された大工道具一式の資料整理にあたっては、民俗分野の資料を整理する市民ボランティア「福の会」6名の他、博物館実習生3名が作業にあたった。

（1）写真撮影

資料の状態によっては、はじめにクリーニングをおこなう。しかし今回は、比較的汚れが少なかったので、西野工務店から提出された資料リストとの照合も兼ねて、はじめに写真撮影をおこなった。

（2）資料カードの作成

資料カードとは、資料の写真とともに、資料の情報を記したカードのことである。大きさを測り、資料をよく観察し、刻印などの有無を確認する、そうして得られた情報をカードに記入する。

ちなみに大工道具にある刻印等は、小さく、またほとんどが磨滅しているため、判読が難しいものが多い。また、形も単純な物ばかりではないため大きさを記録するのも難しいため、そうした場合は、図にして記録した。

（3）付票の作成

付票は資料に取り付ける物で、資料番号や資料名、点数などが記載されている。この作業は、資料カード作成と同時にいった。

（4）収蔵庫へ保管

資料を燻蒸した後、収蔵庫の指定箇所へ保管する。



写真6 「資料整理のようす」

おわりに

ここまで(株)西野工務店より寄贈された大工道具一式について、その具体的な資料の内容と資料整理について報告してきた。

今回寄贈された大工道具の大きな特徴は、カンナが非常に多いことである。一つ一つの細かい調査は今後の課題となるだろうが、大工道具は道具そのものの形状を眺め、分類・整理するだけでは理解できない。その道具が現場で実際にどのような用途で使用されているのかを知ることが大切である。特にカンナは用途によって形状がかなり異なることから、その傾向が強いといえる。

また、一口に大工道具といっても、カンナやノコギリのように、どの職人でも共通の道具だけではなく、今回寄贈された自転車用工具箱や手作りの道具など、それを使用していた個人の生活によって内容に違いが見られることがわかる。こうした個人の生活史を聞き書き調査などで蓄積することで、資料を生きた姿で収蔵することができるはずである。

最後に、今回の資料を通した地域住民と博物館との関係について述べたい。

寄贈を通した地域住民と博物館との関係は、単に資料を受け取るだけではなく、直接寄贈者からの話を聞くことで、資料の情報を補完することができる。それは地域への理解に繋がり、民俗の保存となるだろう。さらにそれを展示に活かすことで、地域住民にフィードバックすることができる。ここでは博物館を媒介として、寄贈者とその他の地域住民の繋がりが生まれるといえる。

一方、資料整理を通した博物館と市民ボランティアとの関係は、地域住民が主体的に博物館事業に関わることで、地域へのより深い理解を生み、博物館が資料を保存する意義を知ってもらうことができる。そして、その資料が展示されることで、他の地域住民の学びにも繋がっていく。ここでも博物館は媒介者としての役割を果たしている。

今回の寄贈と資料整理を通して、地域住民と博物館は相対する関係ではなく、むしろ博物館は地域住民同士を間接的に繋げる媒介として機能していることがわかるのではないだろうか。

ただし、博物館はそれ自体に教育の普及という役割を担っている。単なる媒介者ではなく、研究機関として調査・研究を行うことで、寄贈された資料に新たな価値を付加し、それを地域住民に提供する使命を負っていることを忘れてはならない。

参考文献

- 永雄五十太 1994『大工道具入門 [新装版]』井上書院
相模原市教育委員会 1983『さがみはらの文化財 第18集 諸職調査報告書』

表1 「大工道具等リスト」

NO	名称	数量	縦(mm)	横(mm)	高さ(mm)	径(mm)	備考
1	南京鉋 (ナンキンカンナ)	1	92	285	48		
2	溝道具	1	110	163	30		「□魚壽」
3	〃	1	260	34	95		
4	〃	1	250	28	105		
5	〃	1	20	80	60		「東京特製」
6	〃	1	32	254	135		
7	機械作里 (キカイサクリ)	1	89	215	99		「□□」
8	際鉋 (キワカンナ)	1	35	249	92		
9	銀杏面鉋 (ギンナンメン)	1	50	180	70		

10	坊主面鉋（ボウズメン）	1	35	195	55		
11	内丸鉋	1	28	177	53		
12	外丸鉋	1	27	90	45		刃に「π房」
13	反鉋（ソリカンナ）	1	112	36	20		刃に「登録」
14	〃	1	133	84	24		
15	台直鉋 （ダイナオシカンナ）	1	154	71	24		刃に「K」本体に「芳」 の刻印あり
16	鉋	1	271	90	28		刃に「是」
17	〃	1	80	275	40		刃に文字あり
18	罫引き（ケビキ）	1	30	163	110		
19	〃	3	(1) 170 (2) 160 (3) 165	(1) 107 (2) 107 (3) 107	(1) 50 (2) 52 (3) 62		(2) 「芳」 (3) 「K.Y」
20	印籠鉋（インロウカンナ）	1	40	210	55		持ち手に「大傳」
21	片刃鋸 縦挽き	1	515	200	27		持ち手に「西野」
22	〃	1	215	570	30		
23	畦挽鋸（アゼヒキノコ）	1	39	360	15		
24	手斧（チョーナ）	1	580	190	101		
25	剣錐	1	328			30	
26	丸錐	1	256			22	
27	止め型	2	① 180 ②	① 85 ②	① 20 ②		
28	曲尺（カネシャク）	1	150	255	8		
29	定規	1	70	355	20		
30	足付金盤	1	237	53	28		
31	ハタ金	2	510	60	35		
32	瓢単面鉋（ヒョウタンメン）	1	30	185	60		
33	道具箱	2	① 265 ② 283	① 692 ② 670	① 209 ② 151		
34	ドリルセット	1	265	165	70		
35	丸太用止金具	1					
36	鋸	2	① 22 ② 32	① 388 ② 295	① 15 ② 3		小巾用
37	鋸（ヤジリ）	1	870	920	15		上棟式用 欠損あり
38	自転車用道具箱	2	520	150	230		
39	丸崎山車の部品	2	1460	35	160		屋根材
40	丸崎山車の部品	1	20	210	450		
41	丸崎山車の部品	1		130	350		
42	丸崎山車の手摺子	1	150	40			
43	鋸（カスガイ）	1	63	225	15		
44	ねじまわし （ドライバー）	1	240			30	
45	やっこ	1	250	42	15		
46	不明	1	238	96		10	
47	楔（クサビ）	1	85	39	5		鉋の刃
48	鉋の刃	1	120	2	8		
49	鉋の刃	1	20	102	6		
50	彫刻刀（平刀）	1	190	15	10		
51	砥石	1	110	60	16		
52	引手	5	①～⑤ 70	①～⑤ 67	①～⑤ 9		シール 「大阪府特免 16.10.6 迄有効」
53	写真	47					CD